



第38回のインタビューはガイドヘルプボランティアグループ 代表 下向井 ハツ子さんです。

第38回スマイルインタビュー



市民の皆さんに
お願いしたいことはありますか。

主な活動を教えてください。

大竹市視覚障がい者福祉協会の会員の皆さんの支援です。会員が会合に出られる時や、レクリエーションに参加される時に支援をしています。

サークルを作られたきっかけなど教えてください。

最初は視覚障がい者福祉協会の事務局として支援していましたが、昭和61年にボランティアグループとして立ち上げました。当初は視覚障がい者協会の会員も多く、ガイドヘルプボランティアの会員も20名くらいいましたが、現在は利用者もグループの会員も共に減っています。



アイマスク体験・歩行訓練

視覚障がい者の普段の生活で、お気づきがあればお願ひします。

情報の入手先は主にラジオですがいろんな情報が入りにくいそうです。特に、テレビのニュース速報などです。速報が入ったのはチャイムの音でわかるのですが、その後は画面に文字しか出ないので、何が起きたのかわからなくて不安が高まるそうです。

お気づきがいればお願ひします。

視覚障がい者は、駅の木で転落した経験のある人が多いです。町中で戸惑つておられる視覚障がい者（白杖をお持ちの方）を見かけたら、まず自分の名前を言つて「何かお手伝いしましようか？」と声をかけて行動してください。勇気と想いやりがあればだれにでもできることです。

皆さんの周りには、障がい者高齢者、小さな子ども連れなどいろんな方がいます。それらの方々に気づいてください。

最後に一言

視覚に障がいをお持ちの方、お手伝いいただける方、私達と一緒に活動しましょう。



企業へのガイドヘルプ講習

長い間の活動で楽しかったことを紹介してください。

平成9年に県の派遣により、所沢市で開催された歩行訓練士の講習に行かせていただきました。その後、県内の各サークルに歩行訓練の指導をさせていただき、多くの方と知り合いになりました。



ボランティアの皆さん

広報広聴特別委員

委員長
副委員長

細日山中藤寺
川域崎川川岡
雅年智和公尚
子究一之弘章典

市議会だよりは
市ホームページにも
掲載しています。



酷暑の夏がようやく終わり、朝晩はひんやりしてまいりました。入れ替わるように、今度は経験したことのない台風の到来です。被害にあわれた方々にお見舞い申し上げます。市内にはレベル5（緊急安全確保）の避難情報がだされ、今までにならない緊張感で過ごされた方も多いと思いつります。時に大きな爪痕を残す台風ですが、事前に備えができる数少ない災害だそうです。

市のホームページでは、市の河川の浸水想定図が閲覧できます。「ひろしまマイ・タイムライン」や「防災タイムライン」など防災に役立つツールも使って、災害への物心両面の備えをお願いします。

あとがき